

令和2年度総合教育会議議事録

- 開催日時 令和2年10月13日（火）午前10時30分
- 開催場所 本庁舎別館 403会議室
- 出席者 谷藤裕明（市長），千葉仁一（教育長），田口淳一（教育委員），玉川英喜（教育委員），五十嵐のぶ代（教育委員），佐々木健（教育委員）
- 事務局職員
教育委員会
豊岡勝敏（教育部長），大澤浩（教育次長），千葉高明（総務課長），紺野好弘（参事兼学務教職員課長），紀修（学校教育課長），阿部敢（総務課長補佐），佐藤理恵（総務課総務企画係長）
市長部局
古舘和好（市長公室長），牧野英恵（企画調整課政策調整係長）
- 傍聴者 2名（盛岡タイムス，岩手日報社）
- 内容 次のとおり

1 開 会

（大澤次長）

御案内の時間となりましたので、ただいまから、令和2年度盛岡市総合教育会議を開会いたします。

本日の進行を務めさせていただきます、教育次長の大澤でございます。よろしく願いいたします。

本日の会議でございますが、構成メンバーとなっている「市長」と「教育長」及び「教育委員」の全員が出席しておりますので、ご報告させていただきます。

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

開会に当たり、谷藤市長がごあいさつを申し上げます。

2 あいさつ

（谷藤市長）

おはようございます。

本日は、教育委員の皆様には、御多用の中、御出席をいただき、誠にありがとうございます。また、日頃から、本市の教育の充実のために御尽力をいただき、心から感謝申し上げます。

本年2月に開催いたしました総合教育会議におきましては、「学校教育の現状と課題について」及

び「盛岡市の子どもたちの活躍について」の2件を議題として、皆様と意見交換をさせていただいたところでした。

今年度から始まった新学習指導要領の小学校での全面实施、G I G A^{ギガ}スクール構想による1人1台の端末の整備等、教育における大きな改革に取り組もうとする矢先に、新型コロナウイルス感染症の全国的な感染拡大に見舞われましたが、そのような中で、子どもたちの学びの機会をいかに保障し、いかに子どもたちが安全・安心な学校生活を送ることができるようにするか、学校現場におかれましては相当な努力と苦労を継続されていることと存じております。

このような状況におきましても、教育委員会と連携しながら、本市の未来を担う子どもたちの教育の充実を目指して、教育施策を推進してまいりたいと存じますので、千葉教育長をはじめ、委員の皆様から、ぜひ忌憚のない御意見をいただきたいと思っております。

本日は、どうぞよろしく願いいたします。

(大澤次長)

ありがとうございました。それでは次に、次第の「3 議題」に入る前に、本日の進め方について、説明させていただきます。

議題の(1)「コロナ禍における学校教育について」は、資料1、資料2及び別紙、議題の(2)「盛岡市の子どもたちの活躍について」は、資料3により進めてまいります。

会議の議長でございますが、盛岡市総合教育会議運営要綱第2の規定によりまして、市長が務めることとなっております。ここからの議事進行は谷藤市長にお願いしたいと存じます。よろしく願いいたします。

3 議 題

(谷藤市長)

それでは、議長を務めさせていただきますので、よろしくお願い申し上げます。

それでは早速、3の議題に入ります。

(1)「コロナ禍における学校教育について」でございますが、事務局から、「学校現場の活動について」及び「G I G Aスクール構想の実現への対応について」、概要説明をお願いします。

(豊岡教育部長が、資料1、資料2に基づいて説明)

(谷藤市長)

事務局から、学校現場の活動についてと、G I G Aスクール構想の実現への対応についての説明がありましたが、皆様から意見などを頂戴したいと思います。

(玉川委員)

初めに、昨年度の小・中学校へのエアコン設置について、御礼を申し上げたいと思います。近年夏の暑さが厳しくなっているわけですが、今年は9月に入ってから真夏日が続きました。エアコンを設置していただいたおかげで、学校では子どもたちがじっくり学習に臨むことができた、子どもたちがいきいきと教育活動に取り組むことができた、先生方もいつもは疲れ切って職員室に戻ってくるころ、今年は笑顔だったというような声を聞いております。安心して教育活動に取り組める環境を整備していただき、ありがとうございました。

コロナ禍での学校現場の活動の様子について、今年は学校を訪れる機会もほとんどないわけですが、その中でもいくつか見聞きして感じたことを述べたいと思います。私は日本教育会という団体に関わっておりまして、その会報でコロナの問題について取り上げてみようということで、中野小学校と厨川中学校を訪れて取材を行いました。3月の突然の一斉休校や4月からのコロナ対応による新たな学校生活に真摯に取り組まれているということを感じました。

一斉休校は準備期間が2～3日しかなくても、短い時間で課題の準備や休校中の過ごし方の指導をしたということでしたし、卒業式等の重要な教育行事も適切に行ったようです。新学期は、学校の再開を待ちわびた子どもが多かったということで、学校が好きな子どもが多いと感じましたし、先生方も様々な感染防止対策を行いながらの学校生活、行事の組み替えや年間教育計画の変更等に追われたようです。

そんな中、新たな学校生活に順応しようと頑張る児童生徒。働き方改革に逆行するような状況に置かれながらも頑張る教師。逆境を乗り越えていこうとする姿がありました。

東日本大震災の時もそうでしたが、未曾有の危機に直面し、極限の状態の中で様々な工夫で希望の光を見出している姿をたくさん見てきました。自分のことよりも困っている周りの人を助けたいとボランティアに励む生徒、自分も被災しているのに避難所で懸命に被災者のために尽くす先生。

今回も足りないことを嘆くのではなく、足りない中で何ができるか、前向きに考えて学校生活を新たに築いていく。盛岡の、岩手の教育の底力を感じました。

(谷藤市長)

ありがとうございました。

次に、佐々木委員お願いいたします。

(佐々木委員)

私からは、小学校の様子を中心にお話したいと思います。学習指導の面では、盛岡は一斉臨時休業の期間が短かったことや学校行事の見直しをしたことにより、教科の進度に遅れはないようです。

し、2学期からは「新しい生活様式」の下、各学校で様々な工夫をしながら対応して、新学習指導要領を含めてほぼ正常に近い状態で学習指導が行われていると伺いました。しかし、見学学習や音楽・体育といった実技教科では十分な学習ができなかった部分もあるようです。これらを含め、今後は子供たちが学習したことの定着状況を把握し対応する必要があると思われました。

学校行事については、新年度当初から大きな見直しを迫られ、1学期はほとんどの行事が中止や2学期以降に延期されました。2学期に入り、内容を変更・縮小しながら修学旅行や遠足、運動会や学習発表会が行われています。そんな中で、ある校長先生から2学期の行事を通して、1学期とは違う子どもたちの明るい笑顔やいきいきとした姿が見られたという声を聞きました。学校行事は、子どもたちの学校生活に変化や潤いを与えてくれる大きな役割がありますので、コロナ禍の中で行事の見直し・精選が行われているが、子どものために何が大事なのか、行事の目的や意義をしっかりと吟味してほしいと思われました。

東松園小学校6年生の取組は、全校のマスクづくりを通して最高学年としての自覚を培うとともに多くの人に役立つことの喜びを感じ取ったのではないかと思います。また、上田中学校生徒会の取組は、感染の恐怖と闘いながら患者さんたちと向かい合っている医療従事者の皆さんを励まし、多くの市民の心も温かくしてくれました。

(谷藤市長)

ありがとうございました。

では、田口委員お願いいたします。

(田口委員)

私からは、GIGAスクール構想に関連して、特にコロナ禍におけるオンライン学習について、感じていることを述べさせていただきます。

これまでの教育活動は、いわゆる三密の中で展開されてきたともいえます。子どもたちは多くの人との交わりの中で自己を高め、成長してきたと思いますし、それぞれの発達段階の中で人格の形成を図ってきたとも言えます。しかし、その交流・接触のあり方がコロナ感染拡大の元凶になるということで、自宅待機や外出自粛が強力に要請され、教育活動も徹底した三密回避の中で行われています。

コロナ禍の中でいろいろな制約もあり、授業方法の変更や行事の中止・延期等もありますが、反面実施形態を工夫するなど、子どもたちを取り巻く衛生管理には十分留意しながら、各学校とも大変努力している様子がうかがえます。このような中で、特にも命の大切さや他者への思いやり、感謝の心を醸成するなど、教育が本来持っている不易の部分を大切にしながら教育活動が展開されていることは大いに評価できるというように考えております。

さて、休校中の取り組みとして、オンライン学習の導入が注目されました。休校時においても学習の遅れを防ぎ、学びの継続を保障しようというわけであります。本県も含め、全国的に実施率は低いのが実情ですが、早急の改善が求められていると考えます。

そういう意味で、国が進める「GIGAスクール構想」には大きな期待を持っています。事業推進により期待される効果等については資料にまとめられておりますので、ここではオンライン学習導入に関連して2点お話しさせていただきます。

1点目は、きめ細かい実施計画の作成と教員研修の充実についてです。今時の子どもは、人工知能AIや画期的な通信技術5Gなど加速度的に進展する社会の中に身を置いていることから、先進的情報機器に対する抵抗感は比較的少ないと思いますが、基礎・基本の習得は学校教育の大きな役割になります。今後は、新たな指導分野に対応できる教員の力量をどのように高めていくか、研修の在り方・充実は非常に重要であると考えます。

2点目は、家庭学習としてオンライン学習を導入する場合の、計画的な途中指導の工夫と、家庭・保護者の理解と協力が必要ということです。課題や作業等を課しても、受け手に探究心や向上心等がなければ内容が身につかず、放任状態にもなりかねない危険性をはらんでいます。双方向型学習の推進も含めて、学力格差を生じさせないためにも、通信環境の整備はもちろんのこと、個々の学習進捗状況の確認方法など、家庭・保護者との密接な連絡・協力を確実に得ることが、成否を分ける鍵になると考えます。

学校教育は教師と児童・生徒の信頼の上に成り立っています。人と人との関わり合いの中で子どもたちは成長し、人格が形成されます。これからも、教育は人間的営みの中で成立し発展するものと確信していますが、今後も予想される不測の事態に対応する手段として、オンライン学習体制の整備は、必要不可欠と考えています。

(谷藤市長)

ありがとうございました。

では、五十嵐委員お願いします。

(五十嵐委員)

私からも、GIGAスクール構想の実現について、お話をさせていただきたいと思います。

御存じのとおり、コロナ禍の中で全国的にオンライン学習やテレワークが推奨されるようになってきました。盛岡の子どもたちがこれから世界に羽ばたいていくため、義務教育学校についてICT機器の導入が進むことは、必要不可欠と考えています。本州一県土の広い岩手県だからこそ、盛岡を中心としたオンライン学習が発展していくことが、もしかしたらこの先の日本の学習モデルにもなり得る可能性を秘めているのかなと考えます。

ただ、課題として基本のICT活用能力の養成の時間の確保が考えられ、先生の研修期間は長期休みに設定する等の配慮をしているとのことですが、元々先生方は他にも夏休みに多くの研修を抱えていて、その中で児童生徒に寄り添った本来の業務から離れる時間が多くなることで、保護者としては心配です。過去には、学校の先生は何でもできて当たり前という風潮がありましたが、保護者や社会からのニーズがあまりにも多岐に渡っていて、体調を崩してしまう先生もいるのが現状です。これでは子どもたちの健全育成という本来の目的からかけ離れてしまうと思っています。ICT機器関連には得手不得手があります。研修をしても、わからない部分が多々出てくると思います。働き方改革の観点も含め、専門のICT支援員の導入が必要不可欠と考えております。

岩手県はコロナ禍においても発現が緩やかで、県民各位が予防に努めています。修学旅行も県内を中心ですが、このことで改めて地元岩手・盛岡の良さを学ぶ機会となっています。先人がとても多い街でもあり、中央集結ではなく、岩手盛岡の歴史や暮らしぶりの良さを知ってもらうチャンスになればいいと考えております。以上です。

(市長)

ありがとうございました。

では、千葉教育長お願いします。

(千葉教育長)

最初に、学校現場の活動についてですが、何より感染症対策の徹底を図り、子どもたちの健康・安全を守ることが大切であります。各学校では毎朝の体温等の健康チェック、マスクの着用や手洗い・うがい、消毒や換気など、一生懸命取り組んでいただいております。

感染症対策と同時に、子どもたちの学びをいかに保証するかが重要な課題となっております。学校では資料のような対策を講じながら、日々の授業や部活動、学校行事などに取り組んでおります。子どもたちはコロナ禍で活動の制限があるにも関わらず、学校の工夫した取り組みや努力により、よりよく育っていると感じます。先ほど紹介した手作りマスクや医療従事者に向けた横断幕には感動いたしました。私も上田中学校に見に行きましたが、今も掲示されています。生徒会の発案ということで、子どもたちの主体性にも感心したところです。

道徳の時間には、コロナ感染者への差別や偏見、誹謗中傷をなくす学習を行っており、子どもたちはよく考えて様々な意見を述べています。コロナ禍の生活についての小学6年生の作文で、

「コロナが流行ったからこそ、日常のマイナス面とプラス面を見つけることができました。」

「コロナを通して日々のありがたみがわかった気がします。」

「毎日学校に行けるうれしさ、毎日友達に会える楽しさ、何も無い一日も幸せに満ちていると改めて思いました。」

その他、修学旅行が県内になったことについては、

「修学旅行も先生たちが県内ですごく面白くできるようにしてくださったので、とても楽しいです。早くコロナが収まってほしいです。」と書いています。このような作文や子どもたちの活動を見て感じたことですが、子どもたちはコロナ禍での学校生活を通して、自分たちのことや大人がやることをよく見ているし、いろいろ深く考えて行動しています。そして、人間としての生き方に関わるような大事なことに気付いていると大変感心し、子どもたちの成長を大変うれしく思っています。こういう子どもたちを育てていただいている先生方をはじめ関係者の皆さんに感謝を申し上げます。

次に、GIGAスクールについてであります。これはICT教育を推進するうえで重要であるばかりでなく、再びコロナ等により学校が臨時休業となった場合の遠隔授業に繋がるものなので、それに備えた取組も必要です。一人一台の端末の活用の例としましては、日常の授業の中でのQRコード等の活用のほか、本市で重点として取り組んでいる先人教育につきましても、実際に見学が出来なくても博物館・記念館等をインターネットでつないでの学習ということも考えられます。学校間の交流にも活用できると思っております。市内の小規模校が、多くの子どもたちの考えに触れるための交流、沿岸被災地の学校との交流等があります。また、特別支援教育や、なかなか学校に通えない子ども、別室登校の子どもへの学習支援等、様々なことが考えられます。

活用の方法は、学校の先生だけで考えるとすると大変な負担ですので、学校だけに任せるのではなく、教育委員会としても学校教育課や教育研究所を中心に効果的な活用方法について研究し、各学校に広めていきたいと考えています。いずれ、GIGAスクール構想が着実に推進されるよう、通信環境の整備等も併せて取り組んでまいります。

(谷藤市長)

ありがとうございました。

コロナ禍におかれては、なかなか例年のような教育活動を行うことが難しく、子どもたちにとっては、楽しみにしていた修学旅行や運動会等が延期や中止になるショックだけではなく、日常が一変して、何かとストレスを感じるが増えていることと思います。そのような中で、各学校では、「新しい生活様式」の下で、学校毎に、それぞれ工夫を凝らして頑張ってくださいようです。

新型コロナウイルス感染症の感染者が長らく発生していなかった本市において、感染者が発生した際には、残念ながらインターネットやSNSなどによって心無い誹謗中傷が拡散されて、御本人や事業者、関係者など多くの方々を傷つけてしまったということがありました。しかしながら、子どもたちには、「コロナウイルス感染症は、誰でも感染する可能性がある病気」「恐れるべきはウイルスであり、人ではない」という考えが浸透して、お互いを尊重し、支え合う思いやりの心を大切にできていたことに心を打たれ、逆に子どもたちから教えられる気がいたしました。これは、震災後の復興教育においても、心を一つに未来を担う「人づくり」に取り組んできたことが要因の一つでは

ないかなと感じております。東松園小学校の下級生へのマスクづくり、上田中学校の隣接した中央病院の皆さんへの感謝の思いを伝える横断幕等、コロナ禍の中でいろいろな思いをかたちにして行動を起こしているのは素晴らしいと感じました。

また、昨年度のこの場でも話題にさせていただきましたが、GIGAスクール構想の実現については、コロナ禍の中で更に必要性が増し、令和5年度までに整備することとしていた計画が前倒しされて、令和3年度当初から一人一台端末が整う見込となっております。新型コロナウイルスはもちろんのこと、今後起こり得る新たな感染症の備えとして、臨時休業等の緊急時や不登校児童生徒を対象としたオンライン学習への活用など、大いに期待をしますけれども、全ての子どもたちに最適な学びを保障していくためには、ソフト・ハード両面でまだまだ課題も多いようでございますから、今後私としても子どもの教育の充実のために十分に教育委員会と連携を取っていきたいと思っております。

新しい取り組みの中で、教員の方々も研修を積まないと対応に苦慮するということもあると思いますし、生徒もうまく操作できる子とできない子の差が生じる可能性もあるわけで、そこをうまくカバーできる体制、仕組みづくりに取り組んでいただければと思います。先生方も苦勞されることが多いかと思えますし、子どもたちの方が一歩進んでいる面もあるのかもしれませんが、元々先生方の資質、指導力によって、子どもたちが持っているものを引き出す力があるわけですから、遅れている子どもたちも見捨てることなく拾い上げていただきたいと思えます。ぜひよろしく願います。

(谷藤市長)

それでは、2点目の「盛岡市の子どもたちの活躍について」に移ります。初めに、事務局から、概要説明をお願いします。

(豊岡教育部長が、資料3に基づいて説明)

(谷藤市長)

ありがとうございました。今年はコロナ禍の中で中止が相次いで、うまくいかなかったこともあるかと思えます。みなさんに一言ずつお話をいただければと思います。

最初に、田口委員をお願いします。

(田口委員)

様々な大会が全国的に中止になるなど、本人はもちろん保護者も含めて辛い、残念な気持ちが強かったらと思います。今年は本来であればオリンピックイヤーで、明るい話題にあふれ活気に

満ちた年になるはずでした。これまでの取り組みを、今後の生活に活かしてもらいたいものと願っております。運動面のみならず、城南小の読書活動文部科学大臣表彰や下橋中の環境大臣表彰などは、これまでの全校挙げての地道な取り組みが評価され、嬉しい限りです。子どもの元気は地域の元気に繋がりますので、今後とも子どもたちの活動や活躍を見守っていきたいと思っています。

(谷藤市長)

ありがとうございました。玉川委員お願いします。

(玉川委員)

今年はいろいろな制約の中ではありますが、子どもたちはそういう状況にも関わらずよく育っていると感じます。例えば、県中総体は中止になりましたが、それに代わる各地区での中総体が開催され、出場した子どもたちがコメントを求められたときに「こうした大会を開いてもらって感謝する」という、自分たちを支えてくれる人たちへの感謝の言葉がいくつも綴られていました。市内の中学校の文化祭で、生徒代表が「例年と違うからこそ、今年できることを考えながら作りあげてきた」と言った話も聞きました。

子どもたちには「三分の飢えと三分の寒さ」が必要と言いますが、足りない、不自由な中で子どもたちが逆に工夫したり、成長したり、コロナ禍で改めて認識させられました。盛岡の子どもたちは、感謝や思いやりの心が着実に育っていると感じました。以上です。

(谷藤市長)

五十嵐委員お願いします。

(五十嵐委員)

スポーツでも文化でも、岩手から全国に羽ばたいていくという印象が強いです。コロナ禍の中でも通信陸上等で数々の優勝という成績を収めて、盛岡の子どもたちの活躍が、岩手全県の底上げとなっていると感じます。

日々の生活の中でも、コロナ禍においてもマスクを付けながらランニングしている子どもたちを見かけて、意識レベルの高さを感じます。余談ですが、シティマラソンの中止は残念でしたが、アプリでランニング距離を計測する取組等をされていて、来年度も期待できるな、継続してシティマラソンを続けていくという考え方が伝わり、来年にも活かしていただきたいと思っています。以上です。

(谷藤市長)

佐々木委員お願いします。

(佐々木委員)

本当に子どもたちはよくコロナ禍の中で頑張ったなと思います。多くの大会が中止された中で、市中総体や新人戦が開催されたわけですが、市中体連事務局を中心に専門部の先生方や関係競技団体の方々には、感染症対策を練りに練って、大変なご苦勞があったと伺っている。こうした方々にも敬意と感謝の気持ちを表したいと思いました。以上です。

(谷藤市長)

ありがとうございます。では、千葉教育長、お願いします。

(千葉教育長)

コロナ禍で様々な大会が中止されたわけですが、関係する中体連の先生方や大会関係者の皆さんも、何とか子どもたちに活躍の場、実力を発揮する場を作ってあげたいという熱い思いで開催されたものです。無観客ではありますが、様々な感染症対策を講じながらよく吟味して取組んでおられました。私もバスケットボールの試合と駅伝を視察しましたが、子どもたちが必死になって頑張っている姿を見て感動しましたし、子どもたちにとってはこういう活動が必要だと思ったところです。

こういう状況ではありますが、今後も子どもたちの良さや可能性を伸ばしていきたいと思います。

(谷藤市長)

ありがとうございました。コロナ禍という中で、感染予防策を講じながら、スポーツ・芸術文化それぞれ工夫しながら立派な成績を残した盛岡の子どもたちはえらいなと思います。

オリンピック・パラリンピックも1年延期となることが決定しましたし、オリンピックと併せたホストタウン事業、子どもたちにとっては視野を広げる上で大切な事業だと思っておりますが、これも1年先送りとなりました。特に、盛岡はカナダの水球やラグビー、マリ共和国の柔道での国際交流を含めた大切な場面でした。今年は無理ですけれども、来年は環境を整えばまたそういう場面を作っていきたいと思います。

「いわて盛岡シティマラソン」につきましても、本来であればこの時期に第2回を開催し、昨年大会は1万人以上が参加し、市民の皆さんも一つの事業を成功させるために町内会やいろいろな方々がランナーをサポートしていくうえで心を一つにした大きなイベントでありました。これもまた、残念ながら中止となってしまいましたが、アプリには3,000人を超える方々が登録しております。日々黙々と頑張って距離を積み重ねているという状況であります。健康増進も含めて、今後

ともこのような取り組みを続けていきたいと思えます。

吹奏楽や合唱等の大会も中止となり、子どもたちのモチベーションが下がってしまった時期もあったかと思われませんが、このような試練にも負けず、5月に盛岡地区中学校総合体育大会の開催が決定して以降、様々な工夫を凝らしながら各種大会を開催していただき、その大会を開いてもらった皆さんに子どもたちが感謝の気持ちを伝えることが根付いてきているのは素晴らしいと思っています。どうもありがとうございました。

(谷藤市長)

それでは、(3) その他ということで何かございますか。

～教育長，教育委員からは特になし。～

(谷藤市長)

特になければ、以上で議長を降りさせていただきたいと思えます。ありがとうございました。

4 閉会 午前11時33分

(大澤次長)

以上をもちまして、令和2年度盛岡市総合教育会議を閉会させていただきます。本日は、大変お疲れさまでございました。ありがとうございました。